



バレンタインデーもようやく終わり、あっという間に桜の季節になったかと思っていたらもう初夏の風が吹いてきました。皆様、いかがお過ごしでしょうか？チョコレートキャンペーンでは、本当に皆様のご協力をいただきまして、当初予定していた2万口を大幅に上回り、3万7千口に達しました。

3月、現場のフォローアップのために、代表の鎌田實と事務局長の佐藤真紀が、ヨルダン、シリアそしてイラク国境のアルワリード難民キャンプを視察。早いもので、イラク開戦から今年で5年たちます。この5年間のイラクの人々の苦しみを改めて再認識しました。

戦争前に出会ったバグダッドの10歳の少女は15歳になっていました。彼女から手紙です。私たち日本人は、決してイラクのことを忘れてはいけません。

スハード・サエッド

傷ついたイラクから日本のこどもたちへ最上の挨拶で手紙を書きます。みんなのことが恋しいし、みんなのことをもっと聞きたいです。お元気ですか？あの楽しかった日々がまた私のところに帰ってくればと思うけど、今のイラクの現状はそれを許しません。もし私に翼があり、たくさんの国を超えて私の兄弟である日本のみんなに会えたらどんなにうれしいのでしょうか？私の家族や友人からの思いもこめて、皆さんに平安がありますように。残念なことに、世界中の紙を集めても私の気持ちを書ききることは出来ないでしょう。

さて、3月25日、イラクでは、紛争が激化、特にバスラでは、激しい戦闘が続いています。4月に入り、少し落ち着きましたが、現地の子どもたちには厳しい環境が続きます。

4月6日、急遽、事務局長が、アンマン、クウェートで、現地の加藤、イブラヒムと合流し、急遽緊急食料支援を開始。特にがんの子どもたちにとっては、食料の物価が上がり、病院にもこれない子どもたちがたくさんいます。2週間以上治療が中断してしまった子どもたちに、一日も早く病院に戻ってきて欲しいと、病院内での食料配給を開始しました。

ぜひ引き続き皆様のご支援をお願いします。

事務局長：佐藤真紀

バスラ危機にともなう緊急支援

3月25日、イラク南部の都市バスラで、イラク政府軍によるムクタダ・サドル師派への軍事作戦が開始されました。作戦開始直後はバスラ県の多くの地域が戦闘状態におかれ、劣勢のイラク政府軍を支援するため米軍による空爆や英軍の参戦など戦闘が一気に激化し、逃げ場のないストリートチルドレンをはじめとして、一般の市民にも多くの犠牲者が出ました。食糧や水の備蓄がなく、ライフラインも寸断された状態で外出禁止令が出された市民は、わずかな食料を食いつなぎ、塩分を含む水道水で渴きをしのぐ困窮に耐えなければなりません。また、会議のためにアンマンに出ていたJIM-NETローカル・スタッフのイブラヒム・ムハンマドもバスラ空港が閉鎖されたため、4月18日までアンマンに足止めされてしまいました。

マス・メディアは、4月初めには治安が回復したかのような報道をし、バスラに関する報道もほとんどなくなってしまいましたが、ローカル・スタッフのイブラヒムや協力者からの情報によると4月25日時点でも、バスラ市内の各地で散発的に武力衝突が起きたり、一般家庭への不当な家宅捜索が行われたりするなど、バスラ周辺は不穏な情勢が続いています。

JIM-NETが支援するバスラ産科小児科病院は、軍事作戦が始まってから医師たちが病院へ行くことが困難になり、ほとんど機能が停止した状態が約3週間続き、がんや白血病と闘う子どもたちにとって深刻なダメージをもたらしたようです。

JIM-NETでは、4月7日に佐藤真紀事務局長と加藤丈典現地駐在スタッフをバスラと国境を接するクウェートに派遣し、情報収集をするとともに緊急支援プロジェクトを立案、国際NGOと協力し以下の内容で支援活動を行っています。

1) サフワン地区貧困家庭への水の供給

内容	2000リットルの飲料水(ペットボトル)をクウェート経由で搬入。現地の協力者が配給作業を実施する。
対象	約100家族
時期	4月11日に手配
予算	2,000ドル
備考	クウェートと国境を接するサフワン地域は湾岸戦争の際、大量の劣化ウラン弾が使用されたところで何人かのがんの子どもたちがいる。

2) ズベイル地区貧困家庭への食料パッケージの供給

内容	食料パッケージを400セット供給する。供給の作業は国際NGOと協力して実施。※ 1パッケージの内容：米10kg、砂糖1kg、食用油1リットル、ミルク1kg(家族構成にもよるが上記パッケージは約3日分の食料)
対象	400家族(がんの患者の家族10家族を含む)
時期	4月13日から1週間程度
予算	10,000ドル
備考	JIM-NETが支援する子どもの家もこの地域にある。

3) バスラ産科小児科病院への食料パッケージの供給

内容	2)と同様の食料パッケージ400セットを産科小児科病院に送り、病院で患者の家族に供給。
対象	白血病・小児がんの家族のべ400家族(複数回の受け取りを認める)
期間	4月20日から1か月
予算	食料パッケージ…10,000ドル、配送費…1,000ドル

支援総額：23,000ドル

経費：4,600ドル

合計：27,600ドル (約290万円)

この度の緊急支援活動への皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

募金先 郵便振替口座：00540-2-94945

口座名：日本イラク医療ネット

※ 通信欄に「バスラ支援」と明記してください。

ファートマ大活躍

JIM-NETローカル・スタッフ、イブラヒムがアンマンに足止めになっている間、バスラの状況を伝えてくれたのは、JIM-NETの協力者たちでした。バスラ市内に住む産科小児科病院のイドリス医師は、自宅ドアに当たった弾丸の写真とともに生々しいリポートを届けてくれました。そして、ズベイル住むイブラヒムの娘で小学1年生のファートマは、日々の生活の様子を事細かに伝えてくれ、JIM-NETスタッフの間では「父親よりもしっかりしている」とファートマ株が急上昇。ファートマからのリポートをご紹介します。

4月1日「しょっぱい水とかわいたパン」：食べ物がなくてかわいたパンを食べてるの。飲み水が買えないから水道の汚い水を飲んでる。しょっぱいよ。学校はまだ閉まったままです。私たちは怒っているわ。みんなと一緒に勉強

を続けたいのに…。(バスラ地域の水道水は塩分を含んでいるので、市民は浸透膜で塩分を除去した水を購入し飲用としている。しかし外出禁止令のため水を買に行きことができず、やむを得ず水道水を飲用にした。)

4月11日「静けさが訪れたバスラ」：まだ学校が始まらないよ。自由に外に出ることができない。相変わらず家の中で絵をかいたりして時間をつぶしているの…。

4月16日「小学校再開」：やっと学校が始まって嬉しい!! 久しぶりに学校が開いたから、友達と先生と一緒に写真を撮ったの!





イラク南部バスラへ送るため、隣国クウェートで飲料水を準備するJIM-NETのスタッフら=11日(JIM-NET提供)

混乱のイラク南部 水・食料を緊急支援

松本の団体

イラクのがんや白血病の子どもを支援している日本イラク医療支援ネットワーク(JIM-NET、松本市)が、同国南部バスラの病院や貧困家庭に飲料水や食料を送る緊急支援を始めた。バスラでは三月下旬、治安部隊が民兵組織に対する軍事作戦を開始。

病院は数日前まで機能停止状態が続いたほか、物価が上がり、水や食料が手に入りにくい状態という。

十三日に隣国クウェートから帰国した佐藤真紀事務局長は「貧困家庭の子どもはただでさえ治療が続けにくい。戦闘による治療中断の影響を最

小限にとどめたい」と募金を呼び掛けている。

緊急支援は、飲料水二千リットル、米や砂糖などの食料セツト八百組が目標。国際NGOや現地住民と協力し、JIM-NETが支援している産科小児科病院や貧困家庭が集まる地区で配る。二百九十万円が必要となる見込みだ。

JIM-NETによると、産科小児科病院へは一月に治療薬を届けてあるものの、戦闘で医師も患者も外出できず、子どもたちの治療は半月ほど中断したという。病院でも患者に食料を配ることで通院を促す狙いだ。

佐藤事務局長は、クウェートでヨルダン駐在のスタッフと支援の準備を進めてきた。「一部では戦闘終結が伝えられているが、衝突や一般家庭への家宅捜索はま

だ続いている。子どもたちをきちんと支えたい」と話している。

募金は、郵便振替口座00540-2-94945、口座名・日本イラク医療ネットワーク(通信欄にバスラ支援と明記)へ。

JIM-NET新人スタッフががんばっています

昨年のクウェート会議、イブラヒム先生スピーキングツアーでアラビア語通訳として活躍した加藤丈典が、JIM-NETのスタッフとしてアンマンに駐在し、現地活動の中枢を担っています。信濃毎日新聞が伝えたJIM-NETのバスラ支援の記事にはクウェートで水を買付け加藤丈典の写真が掲載されました。

札幌ボランティアチーム奮闘中!

札幌のJIM-NETボランティアチームが、3月から「旅するポスター展」と題して、ニューヨークで昨年行われたICBUW大会にJIM-NETが展示したポスターの巡回展を行っています。先月勃発した「バスラ危機」を知ったメンバーが「北海道からバスラ支援を!」と、それぞれのポスターを「里子」として貸し出し展示をすることで募金活動を行っています。

ポスターを飾ってくださっているのは、ホテル・ニューバジェット、青果店の「あすらん」、同じく青果店の「らる畑」、「channel cafe」など。

イラクの難病児 支援して

イラク南部バスラで、がんや白血病の子どもたちが通う病院を支援しているNGO「日本イラク医療支援ネットワーク」(JIM-NET、事務局・長野県松本市)の活動を応援している札幌市北区の学童保育所指導員高橋伸枝さん(36)が、市内の喫茶店やホテルなどに現地の子どもたちが描いた絵のポスターや募金箱を置いてもらい、募金を呼びかけている。

札幌の女性、募金呼びかけ

バスラでは3月末から、イラク政府軍が反米指導者サドル師派の掃討作戦を始め、戦況が激化、市民が外出できず、病院にも行けない状態が続いている。

このため、JIM-NETは、子どもたちが多く住む地区や病院への水や食糧を供給する緊急支援を始

め、約290万円を必要としている。高橋さんは、闘病中や既に亡くなった子どもが描いた絵や顔写真入りポスターをJIM-NETから取り寄せ、30日まで展示している。

高橋さんは「ちょっと手を差し伸べれば子どもたちを助けられる。崩壊状態の

病院を救えます」と呼びかけている。展示先の問い合わせは高橋さん(☎、ファクス011・727・0120)へ。

募金の振込先は、郵便振替口座「日本イラク医療ネットワーク」(00540・2・94945)。通信欄に「バスラ支援」と明記。



緊急支援を訴える高橋さん

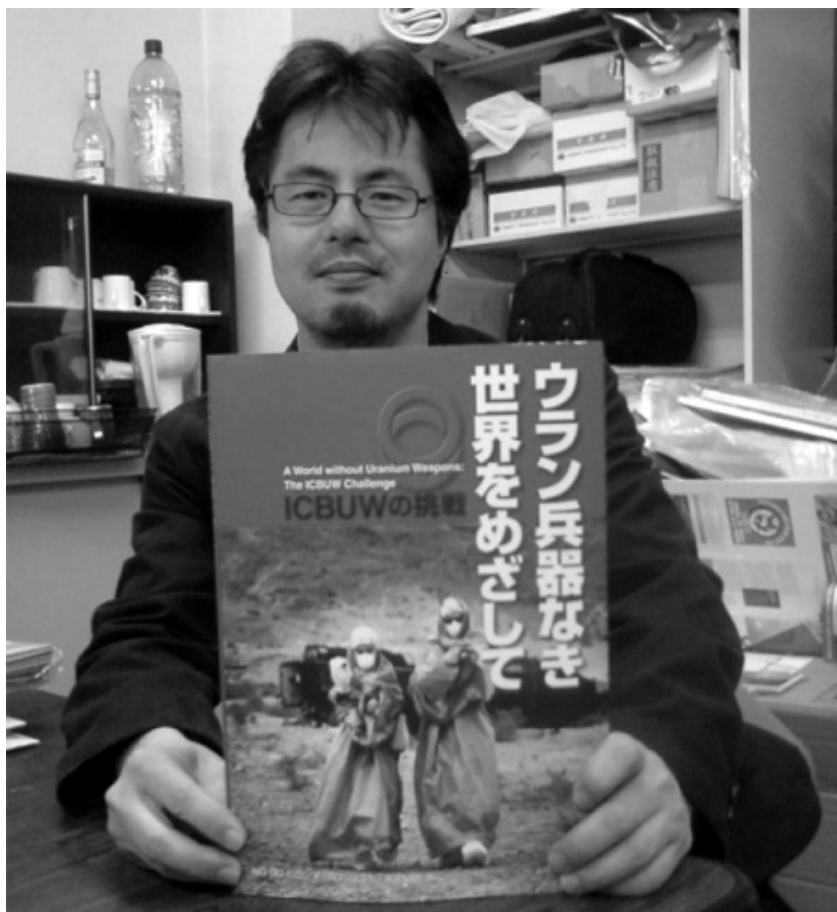
札幌チームの活動を伝える地元紙

新刊案内『ウラン兵器なき世界をめざして ICBUWの挑戦』

NO DUヒロシマ・プロジェクト／ICBUW 編

合同出版 2500円

本書は、当初、2006年8月に広島で開催されたICBUW(ウラン兵器禁止を求める国際連合)第3回国際大会の記録集として構想されましたが、その後、国際キャンペーンはいくつかの大きな展開を見せ、2007年12月には、国連総会で「劣化ウランを含む兵器・砲弾の使用の影響に関する決議」が圧倒的多数で採択されるに至りました。その結果、本書は、ICBUWヒロシマ大会を中心にしつつも、劣化ウランについての基本的情報や劣化ウラン兵器問題をめぐる今までの国際的な動き、2003年10



月、ブリュッセル郊外の町ベルラールでICBUWが創設されてから、2007年12月、ニューヨークの国連総会にて「DU(劣化ウラン)決議」が採択されるまでの取り組みの過程も入れて、『ウラン兵器なき世界をめざして ICBUWの挑戦』として刊行されたものです。

新刊案内『見えないアジアを歩く』

見えないアジアを歩く編集委員会編著 三一書房 1785円

カレン、スリランカ北東部、アチェ、ナガランド、チェチェン、チッタゴン丘陵、イラク……。外務省が「退避を勧告します」「渡航の延期をお勧めします」などと警告している地域ばかりを集めたディープな「紛争地」ガイド。

アジアには、その国の人でさえ越えられない見えざる線が多く引かれている。見てはいけない、行ってはいけないとされる地の知られざる現実と魅惑の世界をたっぷりお伝えする渾身の案内書。バックパッカーも未踏の地はまた、豊かな自然や伝統が息づく人びとの暮らしがあることを、この本が教えてくれる。

もくじより

プロローグ——村井吉敬（早稲田大学客員教授）

●カレン——山本宗補（フォトジャーナリスト）

- スリランカ北東部——澁谷利雄（和光大学教授）
- アチェ——佐伯奈津子（インドネシア民主化支援ネットワーク）
- ナガランド——南風島渉（報道写真記者）
- チェチェン——林克明（ノンフィクションライター）
- チッタゴン丘陵——下澤嶽（平和構築NGOジュマ・ネット代表）
- イラク（ヨルダン、シリア、クウェート）——佐藤真紀（イラクの医療支援のためのネットワーク、JIM-NET事務局長）

悠久の歴史と戦争の現実を知る旅

イラク戦争前夜の入国と出国／戦争の現場を歩く／行ってはいけない生き地獄の現実／ヨルダンからイラクを知る／シリアとクウェートからイラクを知る

■ 9条世界会議－CBUW主催自主企画

劣化ウラン兵器の禁止

－世界の流れと日本の役割・被害者と連帯して－

日時：5月5日 午前10～12時

5月4～6日幕張メッセ(千葉県)で開催される「9条世界会議」で、ICBUW(ウラン兵器禁止のための国際連合)主催の自主企画分科会「劣化ウラン兵器の禁止：世界の流れと日本の役割・被害者と連帯して」が、5日10時～12時半開かれます。海外ゲストとして、昨年世界に先駆けてベルギー議会で可決された「ウラン兵器禁止法」の法案可決に尽力したベルギー国会議員、ディルク・ヴァン・デル・メーレン氏が、日本からは、ICBUW運営委員の森瀧春子、振津かつみ、JIM-NET事務局長佐藤真紀が、報告をします。

講演：「ウラン兵器禁止法」を実現させたベルギーから(仮題)

ディルク・ヴァン・デル・メーレン氏

ディルク・ヴァン・デル・メーレン氏：ベルギー国会議員。フレイミッシュ社会党副議長。国際人権・平和問題を中心に政治活動に取り組む。2007年3月に世界に先駆けてベルギー議会で可決された「ウラン兵器禁止法」の法案提案者であり、ウラン兵器禁止を目指す同国の市民団体と協力し、この法案可決に向け中心になって尽力した。同国の「対人地雷禁止法」、「クラスター爆弾禁止法」の成立の際にも中心になって法案を提出した。「核軍縮・核不拡散議員連盟(PNND)」のベルギーのメンバーでもある。

報告：イラク被害者支援の視点から

佐藤真紀(JIM-NET事務局長)

報告と問題提起：ICBUW国際キャンペーン、「9条のグローバル化」とウラン兵器禁止、「被爆国」日本の役割等について

ICBUW運営委員：森瀧春子／振津かつみ

討論

■ JIM-NET東京事務所開設記念「イラクのこどもたちの絵画展」のお知らせ



5月中旬ごろ、JIM-NETの東京事務所を開設する予定です。事務所開設記念とお披露目を兼ね、事務所機能が本格的に起動する前のがらんどうのスペースで「イラクのこどもたちの絵画展」を開催します。残念ながらこの原稿を書いている時点で詳細が決定していないのでお知らせすることはできませんが、決まり次第JIM-NETのホームページお知らせします。ぜひおいでくださいますようお願いいたします。

■ 事務局から

この4月からJIM-NETは事務局体制を強化すべく、これまで主にホームページの作成に携わっていた熊谷宏がフルタイムの事務局員として主に東京事務所で国内業務を行うことになりました。また、JIM-NET構成団体のスマイルこどもクリニックから榎野ヒカリが事務局に出向することになりました。様々な面でみなさんのお役に立てたら、と思っています。どうぞよろしくお願いします。



榎野ヒカリ 自画像



SERWAN.B 2006

クルド人画家シルワン・バラン氏が描いた熊谷宏